

未来高等学校平日コース・河原高等専修学校 始業式

5月11日(月)

令和2年度の始まりが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって1ヶ月近くも遅くなってしまいました。新しい担任の先生から連絡が来たり、学校からレポートが届いたりしても、新入生にとっては入学したという実感が、また2・3年生にとっては進級したという実感が十分にわかないまま時間が過ぎていたのではないかと思います。私を含めて未来高等学校・河原高等専修学校の教職員も生徒の皆さんの顔が見れない寂しさ、元気であるだろうかという心配がつのっていました。今日、皆さんの明るい表情を見ることができ、非常にうれしい気持ちでいっぱいです。

各種報道で、もう皆さんも知っているように、この新型コロナウイルスは感染力が強く、適切な対応をしなければあっという間に多くの方が感染してしまいます。しかも、感染の初期は軽症でも、わずかに数日のうちに重症の肺炎となり、人工呼吸器につないでも亡くなってしまう患者さんも多くいるそうで、たいへん恐ろしい病気です。今朝の新聞で確認すると、世界で約26万人の方が亡くなっています。26万人と言ってもピンと来ないかもしれませんが、松山市の人口が約50万人ですから、松山市の半分以上の人が今までに亡くなっているということです。これはすさまじい数です。

いま、この新型コロナウイルスよりも怖いものが広がりつつあるということで、日本赤十字社はアニメ動画をネット上に公開して注意を促しています。新型コロナウイルスよりも怖いものとは何か。それは、差別や攻撃です。

病院で働く人たちは、常に感染の恐怖と闘いながら、患者さんの命を守らなければと強い使命感を持って仕事をしています。トラックの運転手など物流を支えている人たちは、行き先が感染拡大地域

であっても、生活に必要なものを確実に届けなければと強い使命感を持って仕事をしています。にもかかわらず、そのような人たちに対して、感染しているのではないかと疑いの目で見て心無い言葉を言ったり、うつされたら困ると接するのを拒否したりする大人がいるそうです。また、そのような人たちの子供と遊ぶのはやめなさいと子供に注意する親もいるそうです。徳島県では、県外ナンバーの車に対して後ろからあおり運転をして危険な目にあわせたり、石を投げつけたりということもあったそうです。ネット上では、面と向かって言えないような暴言もたくさん飛び交っているそうです。

新型コロナウイルス感染症に対して、いずれは有効な治療薬が見つかるでしょう。また、ワクチンが開発されて予防接種ができるようになるでしょう。しかし、先ほど紹介したような差別や攻撃には、それらの薬やワクチンは効きません。いつまでも人々の心の中にはびこってしまう恐れがあるのです。

今日から、愛媛県内の高校では生徒の登校が始まりました。高校では、いろいろな教科について学ぶことはもちろん大切ですが、人間的に成長する、人を差別したり攻撃したりしない心を育てることはそれ以上に大切です。例えば、いま、スーパーマーケットで買い物をする際、行く回数を減らす、行く人数を減らす、レジで並ぶときは一定の距離を保つなど、心掛けなければならないことがいくつもあります。皆さんが買い物に来ている親子を見た時、「何で子どもを家に置いて来ないんだろう。常識のない親だ。この子供もきっとわがままなんだろう。」などとあきれ顔で見たり、にらんだりするのはなく、「子供を家に残して来れない事情が何かあるのかな。」と、その親子を思いやれる心を持ちたいものです。そんな心を育ててほしいものです。

今日からの令和2年度新学期が、皆さんにとって実り多いものとなるよう期待して、私からのお話とします。